

畜産学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、動物の生命現象の本質を追究する生命科学と生産物の生産から流通までの食料生産を追究する生産科学の2領域を包含している。課程を通じて生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医・薬・理学の領域まで広がりを見せる生命科学関連及び良質で安全な食料を生産する生産科学領域で貢献し得る人材を養成する。

2. 教育目標

畜産学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 生命の尊厳や倫理を学び、多様な価値観に柔軟に対応し得る豊かな心を持ち、人類の幸福に貢献し得る能力を有する者
- (2) 先端の知識・技能を修得し、医薬、環境、生命科学なども包含した動物関連領域の発展に貢献し得る能力を有する者
- (3) 良質で安全な動物性食品の持続的な生産、加工、流通を通じて、安定的な社会の発展に貢献し得る能力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

畜産学科は、所定の単位取得を通じて、動物関連産業に貢献する人材育成のため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 社会の一員としての自覚と協調性を持ち、生命の尊厳を重んじ、高い倫理感を持って、自律的・継続的に行動する能力を修得している。
- (2) 動物関連産業に関わる各種企業や団体の指導者、技術者、公務員、教員、畜産業を支える後継者や、新規就農者として国内外で活躍し得る専門知識や技術を修得している。
- (3) 動物に関する知識や技能を活用して、食料、環境、健康、エネルギーなど人類の抱える諸問題を論理的に解明し、解決策を見出す能力を修得している。
- (4) 動物に関する知識や技能を社会に還元し、自らの人生を切り拓いて行くためのプレゼンテーション能力と、物心ともに豊かな人生・社会を築いてゆくためのコミュニケーション能力を修得している。

4. カリキュラム・ポリシー

畜産学科は、畜産分野の教育実践のため、生命科学および生産科学的な方法を用いて、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下のことに配慮しながら教育課程を編成します。

- (1) 動物の生命科学と生産管理科学を学ぶにあたり、生命の尊厳を重んじる姿勢と高い倫理感を醸成させるための科目を配当する。
- (2) 動物の生殖、遺伝育種、生理など、動物の生命科学に関する専門的な知識と実践的な技能を修得させるための科目を配当する。
- (3) 動物の飼養および衛生など、動物の生産管理科学に関する専門的な知識と実践的な技能を修得させるための科目を配当する。
- (4) 畜産物の利用および動物産業の経営に関する専門的な知識と実践的な技能を修得させるための科目を配当する。
- (5) 実験、実習、演習ならびに卒業論文作成など、理解力、知識・技能の活用力、課題設定力、問題解決力、表現力、コミュニケーション能力を修得させるための科目を配当する。

5. アドミッション・ポリシー

畜産学科では、動物や動物関連産業に興味を持ち、将来の人生設計に活かすためにそれらに関わる知識・技能を身につけ、世界的な視野に立って活躍したいという意欲のある、次のような学生を求めています。

- (1) 本学科での専門科目の理解に必要な知識、特に生物、化学、数学ならびに英語の基礎的な学力を身につけている。
- (2) 生命の尊厳や倫理を学び、多様な価値観を受け入れられる豊かな心を育み、深い洞察力を持ち、的確な判断をすることができる。
- (3) 動物に強い関心を持ち、動物を通して生命現象の本質を追求する意欲があり、何事にも真摯な態度で臨み、これを活用して人類の食料・環境・健康に貢献する意欲を有している。
- (4) 動物の生命科学、生産管理科学、加工流通科学に関する技能を修得するための実験・実習・演習に積極的に取り組み、自分の考えを持ちそれをしっかり他人に伝える表現力を有している。